

日銀の視点

第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」が幕を閉じた。県内各地で繰り広げられた熱戦の余韻が残る中、本県選手団、大会関係者はもとより全国から訪れた来県者を温かくもてなした県民の皆さま、本当にお疲れさまでした。

先週、水戸市の県武道館で行われた国体の弓道競技を観戦した。弓道には「正射必中」という言葉があり、読んで字のごとく「教えに沿った正し

い射を行えば矢は必ず的に命中する」という意味である。試合でも的中させるには、射場で平常心を失うことなく集中力を維持し、いかに教えられた通り、稽古してきた通りの射術を行えるかにかかって

選手たちの張り詰めた緊張感と射術の躍動感に筆者も手に汗握り応援した。10月1日に当事務所が公表した茨城県の9月短観調査結果も手に汗握る展開となった。業況が「良い」とする企

業の割合から「悪い」とする企業の割合を差し引いた業況判断DIが2四半期連続で悪化してプラス1まで下がるなど、県内企業の業況観が製造業を中心に慎重化していることが確認された。米中貿易摩

擦や中国をはじめとする海外経済の成長鈍化が及ぼす影響を心配していたが、県内製造業の一部には製品受注や売り上げの減少となって心配が現実となっている。一方で個人消費や企業の設備投資、公共投資などの内需は総じて堅調であり、県内景気の

吉田 豊

日本銀行 水戸事務所 行長

内需堅調 景気回復支え

いるが、実際には射場に立つと緊張はするし試合の雰囲気にもまれることもあり、なかなか難しい。観戦した試合では一本の的中を争う接戦が続いた。的に狙いを定めて矢が放たれるまでの静寂の中で、

緩やかな回復を支えている。スポーツの祭典で盛り上がった余韻を県経済にも引き継いでいけると良いのだが、今後は企業の業況感の慎重化や10月からの消費増税が県経済に及ぼす影響を見極めていき

い。筆者は学生時代、筑波大学の弓道部に所属していた。水戸の武道館には試合や昇段審査で何度か訪れたことがあったので、国体の弓道競技を観戦して学生時代を懐かしく思い出した。当時は自分なりに打ち込んでいたが、試合で全国優勝する夢はかなわなかった。ちなみに妻は大学弓道部の後輩に当たり、高校では国体出場、大学ではインカレ(全日本学生選手権)優勝など輝かしい戦績を残した。今もってまったく頭が上がり

ない。
(第2土曜日掲載)